

東京都立杉並高等学校 令和6年度第七十回卒業式式辞

日一日と暖かくなり、梅がほころび早春を彩っています。時代が移り社会が変わっても自然の営みは変わることがなく、今年もまた春が巡って来ます。善福寺川周辺にも春の息吹が感じられるようになりました。

本日、ここに東京都立杉並高等学校を卒業していく七十期生三〇四名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。お子さま方が、本日ここに立派に卒業を迎えられたことは、何よりもご家族の皆様の支えや励ましがあったからです。三年間本校の教育にご理解とご協力を賜りありがとうございました。ご多用中のところご列席くださいました来賓の皆様、日頃より本校にご支援とご協力いただきありがとうございます。ここに、このような立派な卒業生を新たに社会に送り出すことができましたのも、皆様方をはじめ、たくさんの方々のおかげであると大変感謝しております。

さて、皆さんが入学した年は、新型コロナウイルス感染症拡大が終息しておりませんでしたので、マスクを着用しての入学式でした。体育祭も杉高祭も部活動も制限しながら、アルコール消毒とマスクを着用しての開催でした。二年生になって、規制を緩和して体育祭、杉高祭を実施できるようになりました。部活動も感染予防を行いながら、大会やコンテストが行われた部が多かったと思います。6月には本校の創立七十周年記念式典を挙行し、特に二部では生徒の皆さんの進行と演技で華やかで楽しかったことが思い出されます。十一月には、四年ぶりに台湾に修学旅行へ行くことができました。台中華商の生徒の皆さんの熱烈な歓迎は忘れられない思い出となったと思います。今年度になり、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことにより、学校生活が通常通りに送れるようになり、体育祭、杉高祭を保護者の皆様に参加していただくことができました。学校行事や部活動をとおして、皆さんが人間的に成長するのを大変うれしく感じたものです。

現在、日本は少子高齢化が進み社会構造が大きく変化し、AIの飛躍的な

発展の成果として、生成 AI、例えば ChatGPT などが開発され、ユーザーが入力した質問に対して、まるで人間のように自然な対話形式で AI が答えてくれるようになりました。我々を取り巻く情勢を見ると、感染症や地震などの災害、戦争や紛争、地球温暖化、異常気象、食糧問題、複雑化する国際情勢など、世界規模の課題を抱えた未来の予測が困難な時代になっています。それを、VUCA 時代、ブーカ時代と呼び、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）という時代の特性を表す言葉の頭文字をとって名付けられました。一学期の始業式でお話したのを覚えていますか。その時、VUCA 時代を生き抜くためには、社会では顕在化していない本質的な課題を見つけ、正解のない問いへの納得解をいち早く提案する力、つまり課題の発見能力と解決力能力が必要であるとお話ししました。今後皆さんの多くが進学し、のちに就職するわけですが、これからは知識を得るだけでなく、他人の意見を聞き、それを総合的に判断し、まとめたり、発表したりする「思考力・判断力・表現力」発揮し、自分の関心のあるテーマにおいて、AI を活用して世界的規模の課題に対して正解のない「問い」を立て、解決へ導いてください。

そこで、皆さんに 3 つ助言をさせてください。一つ目は「素直な心でいてください」ということです。変化が激しい予測不可能な時代において新たな創造力が必要になります。それには現状を曇りのない目で見ることのできる「素直な心」が必要だからです。二つめは、「謙虚な心を持ち続けてください」ということです。「謙虚な心」から生まれてくる確信は、揺るがない立派な信念となり、たいていは成功に向かうことができるからです。三つめは、昨年度宮崎駿監督の話をしたのを覚えていますか。「面倒くさいことが実はあなたが大切に思っていることだ」ということです。「自分が取り組んでいる仕事が誰にでもできる、取るに足らない、面倒くさい仕事であっても、これくらいがきちんとできなければ、大きな仕事を成し遂げることはできない。」ということ。そもそも大きな仕事はそのような小さな仕事の積み重ねだということを忘れずにいてください。

最後に、卒業生の皆さんにはなむけの言葉を贈ります。

悪い時が過ぎれば、良い時は必ず来る。

おしなべてことをなす人は、

必ず時が来るのを待つ。

あせらず、あわてず、静かに待つ心は、

春を待つ桜の姿といえよう。

だが何もせずに待つことは僥倖を待つに等しい。

静かに春を待つ桜は一瞬の休みもなく力を蓄えている。

蓄えた力がなければ、時が来てもことは成就しないであろう。

これは松下電器（現 パナソニック）の創業者の松下幸之助氏の言葉です。卒業後の進路が思うように叶った人も、そうではない人も、これからも地道に努力を続けて欲しいという願いを込めています。

卒業生の皆さん、今の志を忘れずに、失敗しても、つまずいても途中で止めないで最後まで心を込めてやり遂げてください。「水滴石穿」の精神で、心を込めてやり遂げれば、必ず何かを得ることができます。何か困難に直面した時に、このことばと本校での教えを思い出してください。それでは、卒業生の皆さんの前途を祝し、限りない発展を願って、私の式辞といたします。ご卒業おめでとうございます。

令和七年三月八日

東京都立杉並高等学校長 高橋 聡